

## 防災イベント「親子で学ぼう、地震への備え」を開催

～阪神・淡路大震災から30年～

一般社団法人 日本損害保険協会（会長：城田 宏明）は、神戸新聞社と共催で、阪神・淡路大震災から30年の節目を迎える2025年1月17日を前に、改めて地震への備えの必要性を考える機会とすべく、防災イベント「親子で学ぼう、地震への備え ～阪神・淡路大震災から30年。みんなで地震後、考えよう～」を1月13日に神戸市内で開催し、約3,000名の方が来場しました。

本イベントでは、子ども向けの体験型コンテンツである「防災ヒーロー入団試験」や、疑似的に地震を体験できる「VR 地震シミュレーター体験」、防災グッズの作成を体験できる「防災ワークショップ」など、地震への備えについて、親子で楽しみながら学べるコンテンツを多数用意し、来場者に体験いただきました。

また、ステージでは、トークイベント「いま、語ろう。地震と、地震後のこと」を実施しました。トークイベントには、9歳の時に阪神・淡路大震災で被災した経験を持つ俳優の相武 紗季さん、NPO 法人神戸の絆2005 副代表で、同震災での経験を語り継ぐ活動を続けている大濱 義弘さん、そして当協会会長の城田 宏明の3名が登壇し、同震災当時の記憶や体験を振り返るとともに、今後の地震への備えについて考えました。



<相武 紗季さん>



<大濱 義弘さん>



<城田協会長>

大濱さんから、小学校の校長をされていた震災当時を振り返り、「勤務していた小学校には2日間出勤することができなかった。自宅近くの小学校へ避難して避難所の手伝いをしたが、避難所の子どもたちは日常が全て壊れてしまったうえ、余震の怖さや寒さなどで本当に辛かったらと思う」と、当時の状況や被災した子どもたちの様子などをお話いただきました。また、相武さんからは、被災時の教訓を踏まえ「長期保存できる備蓄品もあるが、1年に1回は見直している。また、家族全員で災害への備えを確認している」と日頃からの備えをお話いただきました。

さらに、城田協会長からは、日本全国いつでも発生する可能性がある地震に対して、事前に備えることの重要性に触れつつ、「阪神・淡路大震災発生当時の地震保険の世帯加入率は7%だった。その後、地震保険に対する認知度向上を進めてきた結果、現在は35%にまで増えたが、まだ改善の余地はある。これからも引き続き、損保業界として地震への備え、特に地震保険の大切さを発信し続けていく」と話がありました。

イベントに来場いただいた方々からは「大人だけでなく、親子で体験しながら学ぶことができた」「被災当時の事を思い出す機会となった。いろいろな備えを今一度見直そうと思う」といった声が寄せられました。

なお、イベント当日の様子をまとめたダイジェスト動画を協会公式 YouTube チャンネルで公開していますので、ご覧ください。

動画 URL : <https://youtu.be/zZu814yX3v8>

当協会では、今後も地震保険にかかる広報活動に取り組んでまいります。

## 防災イベント「親子で学ぼう、地震への備え」 概要

■日 時：2025年1月13日(月・祝) 10時～18時

■会 場：神戸ハーバーランド スペースシアター

■内 容：

### 【体験型コンテンツ】

- ・防災ヒーロー入団試験
- ・VR地震シミュレーター体験
- ・防災ワークショップ等

### 【ステージコンテンツ】

- ・Dr. ナダレンジャーによる防災科学ショー
- ・ゆるキャラとのフォトセッション
- ・トークイベント「いま、語ろう。地震と、地震後のこと」等

<出演者>

相武 紗季さん(俳優)

大濱 義弘さん(NPO法人 神戸の絆2005 副代表)

城田 宏明(一般社団法人 日本損害保険協会 会長)

<モデレーター>

藤原 正美さん(フリーアナウンサー)

など



トークショーの様子



ゆるキャラフォトセッション



防災科学ショー



体験型コンテンツの様子①



体験型コンテンツの様子②



体験型コンテンツの様子③